

平成 23 年のアユ資源調査結果概要

寺井 章人・二宮 浩司・田中 秀具・西森 克浩・
上野 世司・金辻 宏明・上垣 雅史・太田 豊三

1. 目的

アユの資源水準や成育状況を評価するため、魚群分布調査、産卵状況調査、ヒウオ生息状況調査および成育状況調査を実施した。

2. 方法

魚群分布調査は、1 月から 8 月まで毎月 1 回、北湖の水深 30m 等深線に沿ったコース上に出現する魚群数を観測した。

産卵状況調査は、8 月から 10 月にかけて延べ 5 回、北湖に流入する 11 河川の産卵場においてアユの産卵数を調査した。

ヒウオ生息状況調査は、10 月から 12 月まで毎月 1 回、北湖において網口 1m×2m の角形幼生網による 1,000m の水平曳きを 18 回行い、1 曳網あたりのヒウオ採集尾数を求めた。

成育状況調査は、エリとヤナの漁獲標本を収集し、体長および体重を測定した。

3. 結果

魚群数は、5 月以降大きく平年値を上回った(図 1)。産卵数は 108 億粒で、やや平年値を下回ったが(図 2)、増水のため調査できていない河川が存在した。ヒウオ生息密度は、10 月～12 月の全ての調査で平年を大きく上回った(図 3)。漁獲魚の平均体長は、エリでは漁期を通じて平年を下回り、ヤナでは 6 月以降は平年を下回った(図 4)。

4. 成果

これらの調査結果は水産試験場ホームページに掲載し、漁業関係者等へ情報提供した。

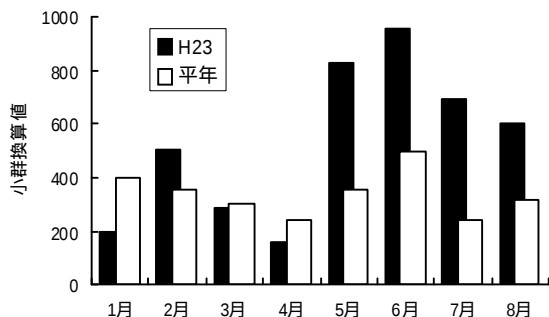


図1 魚群数の推移。
平年値は過去10年間から最大・最小および欠測年を除いた平均値。

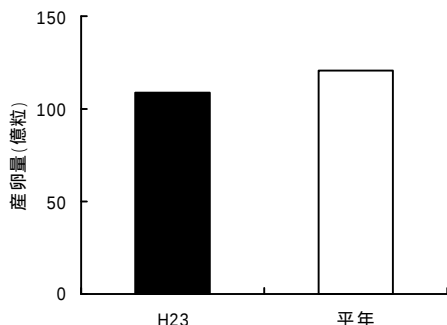


図2 天然河川における産卵数。
平年値は過去10年間の最大・最小を除いた8年間の平均値。H23年は増水のため調査できなかった河川がある。

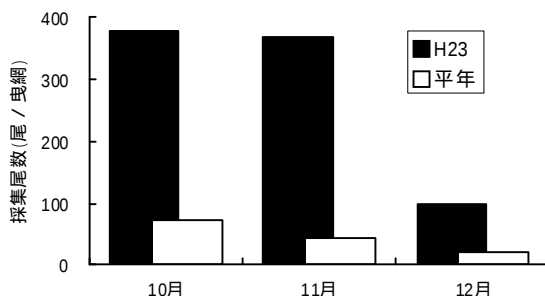


図3 ヒウオ生息密度。
平年値は過去10年間から最大・最小および欠測年を除いた平均値。

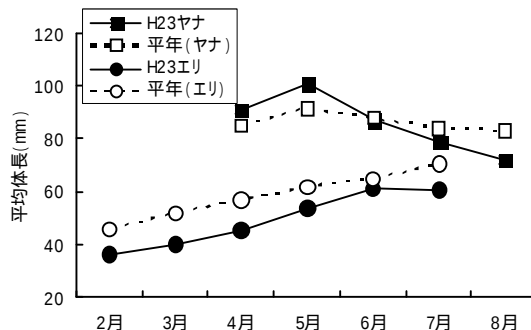


図4 エリ・ヤナ漁獲魚の平均体長。
平年値は過去10年間の平均値。